

# 月刊 まち・コミ

2011年7・8月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



今月の注目記事 ● P1 ~ P3 有機無農薬野菜で地域の活性化を ~鳥居やすらぎ市民農園の今~

## 有機無農薬野菜で 地域の活性化を ~鳥居やすらぎ市民農園の今~



農園利用者のお一人。作業後に鳥居のさとでいただくコーヒーが楽しみとか。

2004年10月の台風23号にて被害を受けた、兵庫県豊岡市出石町鳥居地区。まち・コミは最初、泥かきや瓦礫撤去のボランティアとして地域を訪れました。その後、2005年1月に開催した「御蔵学校」の講師として廣井昌利さん（現在の鳥居やすらぎ市民農園組合長）に神戸までお越しいただいた時に市民農園のことを知り、同年3月から市民農園再建支援を始めることになりました。

鳥居やすらぎ市民農園がオープンしたのは、2007年4月。貸農園と食堂・喫茶「鳥居のさと」を軸に、地元住民で結成した管理組合によって運営されています。1カ月に1~2回程度、視察研修を目的に団体が来ているそうで、外部からも注目されています。今回は、鳥居やすらぎ市民農園の様子をお伝えします。



道具類は無料貸し出し。種類も数も、たくさんあります。

左の建物が多目的施設（食堂・喫茶「鳥居のさと」を含む管理棟）、右が倉庫と堆肥舎。

## 貸農園

全117区画。有機無農薬農法で、地元農家の方にアドバイスをもらいながら野菜作りに取り組めるのが特徴の市民農園です。現在50区画程度に借り手がついているようで、さらに利用者が増えるよう努めています。評判を聞いて、西脇市など遠方からも見学の人が来ているそうですが、実際に借りて長続きするのは豊岡市内の人だそうです。

利用者に魅力を聞くと「有機無農薬栽培を農家の人から教えてもらえるので、確実に育ち、家族が食べるのに安心」「道具が全て揃っていて自由に使えるので、気軽に取り組める」「農園で肥料の販売をしているので、1畝分など使う分だけ買えるので便利」「種や苗も販売している」「鳥居のさとはには必ずスタッフがいますので、農作業で困ったことがあれば気軽に質問できる」「鳥居のさとでコーヒーを飲みながら休憩するのが楽しみ」と、近隣に数多くある市民農園との違いを感じ、利用しているようでした。その他、お手洗いが清潔で、シャワーで作業後に汗を流せるのも魅力です。

### 食堂・喫茶 鳥居のさと

鳥居地区の畑で取れた有機無農薬栽培の野菜を中心に、心のこもった食事を市民農園の多目的施設で提供しています。

月曜日が定休日、2人ずつが当番に当たっています。モーニングと昼食、喫茶利用もOK。

近所の人たちは、鳥居のさとができるま



ある日のかあちゃん定食スペシャル。野菜料理のアイデアが満載で、いつも驚かされます。

では車で5分程度かかる出石中心街などへ出向かなければ、外での食事はできませんでした。今では、急な来客の時でも気軽に利用でき、お弁当をたのんで家で食べることもできるので助かっているそうです。

モーニングセットは生野菜のサラダやトースト、飲み物などのセットで500円、昼食は、日替わりの「かあちゃん定食」が野菜のおかずやお漬け物のセットで500円、かあちゃん定食に肉や魚のメインディッシュがついた「かあちゃん定食スペシャル」は700円。有機野菜のカレーも人気です。畑にある旬の野菜たっぷりの家庭的な料理が評判です。リンゴや梅など、旬の果物を使った生ジュースもあります。

かあちゃん定食のメニューづくりは、当番の人が前日に決めているとか。畑にある野菜を使うため、同じような野菜を使っているのですが、お互いに様子をうかがいながら調理法が重ならないよう、常連客に配慮しているそうです。長年同じ地域に暮らしてきた人同士のあうんの呼吸が、活動を支えています。

## 農園まつり

農園のまつりは、春の菜の花まつり、秋の収穫祭があり、農園管理組合のメンバー以外でも、鳥居地区の方々が大勢手伝いに来られ、ステージイベントや屋台でにぎわいます。

農業を通じて、鳥居地区の住民と外部の農業ファンが交流し、町おこしにつながっている一つの事例と言えるでしょう。



農園まつりの屋台ブース。新鮮な野菜のほか、つきたての餅やおこわの販売も。

「鳥居やすらぎ市民農園」は・・・

住所：兵庫県豊岡市出石町鳥居95

電話：0796-52-5553

観光で出石城下町に行かれる時は、ぜひお立ち寄りくださいませ。

ホームページ「鳥居やすらぎ市民農園」

<http://www.yasuragi-nouen.net/>

まち・コミのメンバーの作業中の写真も掲載！

鳥居やすらぎ市民農園に共感し、開校  
暮らしの学校・農楽「の～ら」

見た目では分かりづらい障害や困難を抱えている若者が、地域の担い手として生き抜けるよう、指導者が支え、仲間とともに成長していく場が、暮らしの学校農楽(の～ら)です。農作業などの仕事体験、料理や掃除などの暮らしのスキルを中心に学んでいます。

鳥居地区にの～らができたのは、鳥居やすらぎ市民農園がきっかけ。代表の木村尚子さんは、但馬を映像で発信する会のメンバーで、同会の一人が、やすらぎ市民農園管理組合の廣井昌利さんの有機農法に注目していたとか。廣井さんの指導が受けられるならと農園オープンと同時にメンバー4人が市民農園を借りることになりました。

農作業をしたり、市民農園を映像取材する中で、鳥居のさとのスタッフから聞いた「儲けるのではなく、自分たちが年を取った時に、食べたいものを食べ続けられるように若い人に料理を教えたい」という思いと、スタッフがいつも笑顔で、楽しそうに運営に携わっていることが、すてきだと思ったそうです。そして鳥居の人たちが、自分のコミュニティに自分の居場所を作っていることに気付き、共感。木村さん自身の学校構想を実現する場は鳥居地区だと思い、地元の人に相談して準備を進め、2010年4月に開校しました。



暮らしの学校の～らの建物。現在8人が、ここで学んでいます。

鳥居地区では、水害後の2006年にのじぎく国体出場者の民泊をいち早く受け入れるなど、外部との交流も積極的に行っています。木村さんもそれを感じているようで「鳥居には外部の人を歓迎する雰囲気があり、特に農村地帯ではめずらしいのではないのでしょうか」とのこと。鳥居地区の新しい仲間として、地域になじんでいるようです。

木村さんは、まち・コミの畑も気にかけてくださっていて、神戸からでも畑の様子が見えるよう、写真をメールで送ってくださっています。また、収穫の時などはの～らのメンバー総出で作業のお手伝いに来てくださって、大変助かっています。まち・コミの力強い応援団です。

暮らしの学校・農楽「の～ら」

<http://www.no-ra.jp/>

#### 参考資料

・台風23号(2004年)水害から5年 出石鳥居やすらぎ市民農園とまち・コミの活動(「月刊まち・コミ」2009年11月号)

<http://machi-comi.homeip.net/m-comi/magazine/pdf/09-11.pdf>

・「2004年台風23号からもうすぐ5年(出石町鳥居地区)」(まち・コミブログ 2009/10/13)

<http://machi-comi.blog42.fc2.com/blog-entry-590.html>

## みくらエッセイ

## 平成23年前期 震災体験学習に来た中学生からのお手紙(1)

4月から6月までで、18校の小中学生が震災体験学習にやってきました。まち コミには語り部さんへのお礼のお手紙がたくさん届いております。その一部を紹介します。

## 【「若いから大丈夫」は間違いでした】

私たちが生まれる前に起こった阪神大震災。それは今なお有名な出来事です。みなさんは復興をされるためがんばっていたということが分かりました。どれだけ悲惨だったか、よく分かります。

今年3月に起きた未曾有の東日本大震災。テレビでそれを見て、心がとても痛みました。私たちもできることをこれからやっていきたいです。神戸の語り部さんの中には、娘さんを亡くされた方もみえました。若いから逃げられると思ったら大間違いです。だから、私たちも中学生だから大丈夫という気持ちではなく、自分の命を守るために、耐震をしたりしていきたいです。(岐阜県 中学3年生 伊藤さん)

## 【東海地震への備えが必要】

わたしたちは阪神 淡路大震災後に生まれました。そして先日起きた東日本大震災でも大きな被害は受けていません。だから、まだ一度も大きい地震というのを体験したことがありません。わたしの友達は関東に住んでいますが、今回は今までに体験したことのない地震でパニックになってしまったと言っていました。わたしたちの住んでいる地域は、30年以内に東海地震が起こる確立が87パーセントだと言われていきます。今回の話を聞いて、もしかしたら今すぐ地震が起こるかもしれないという状況の中で、今まで地震の心配なんてしないで生きてきたということがとても怖くなりました。日本ではたくさんの大地震が起きているにもかかわらず、地震に対しての備えが何も無いというのは、今までの地震で被災された方の苦勞や経験が氷の泡になってしまうと思います。地震はだれにもとめられません。被害を減らすことはわたしたちにもできることなので、まずは自分の家の地震対策からしていこうと思います。友達関係や近所づきあいなど、地震で失ってしまったら全てを取り戻すことはできないから、今学校で友達に会えることや家族と話せることなど、今できること全てがとても良いことなん

だということを考えながら生きていきたいです。そして今回起きた東日本大震災、阪神 淡路大震災の経験をしっかり生かしていきたいです。(三重県 中学3年生 塩原さん)

## 【まち歩きで発見】

僕は阪神 淡路大震災の頃は生まれていなかったので実際のことはあまりわからなかったけど、神戸に行き、みなさんのお話しはとてもわかりやすかったので、僕たちも良く学ぶことができたと思いました。

震災跡地の見学では、語り部さんが先頭に立ち僕たちに震災での爪跡を見せてくださいました。特に当時のままの電柱は、すごく震災を物語っていました。

あと、震災のひどかった地区がわかる鎮魂というモニュメントで、太陽の光を使っていたのがとても印象的でした。

御蔵南公園では、焼けた木があったり、震災当時トイレに大変困っていたというので公園にトイレがいっぱいあることにおどろきました。(三重県 中学3年生 竹村くん)



まち歩きの様子。焼け残ったクスノキを見上げる生徒たち。

# まち・コミ news

の～らの活動支援  
にもなります！



## おすすめ！

暮らしの学校・農楽(の～ら)のデザートサプリ

### 「フルーツガーリック」

本誌3ページでご紹介した暮らしの学校「の～ら」では、鳥居地区で収穫したニンニクで、抗酸化物質がいっぱいの天然サプリメントを作り、販売しています。

ニンニク特有の香りがなく、半生のドライフルーツ感覚でお召し上がりいただけます。健康づくりに1日1粒、ぜひ一度お試しください。



- ・大袋 200g(4～5個) 3,150円
- ・小袋 M玉1個 735円
- ・小袋 粒20個 1,050円 (送料別)

まち・コミの黒大豆の枝豆をご注文くださった方には(同封のチラシ参照)、今回は枝豆と一緒に送付することもできます(送料は枝豆代に含まれています)。ご希望の方は、まち・コミへご連絡ください。

お申し込みは、<http://www.no-ra.jp/garlic/> から申込用紙をダウンロードしてFAXするか、電話・メールで下記へご連絡ください。

### 【問合せ先・暮らしの学校の～ら】

TEL 0796-20-1295 / FAX 0796-20-3295 / メール [info@no-ra.jp](mailto:info@no-ra.jp)

## 大地のつぶやき

東日本大震災を想う Ⅲ

五月二日朝日新聞三面に、岩手県陸前高田市の熊谷立郎さん(七八)が自宅跡地に建てたプレハブ前で両手を大きく掲げマルを書いて「貯金おろせたか？」とのぞき込むように合図を送っている和やかな写真を見て、思わずホッとため息が出た。だが見出しは『被災者の権利か、「公共の福祉」か』『復興に向けて建築制限、財産権保障どこまで』とある。そうだ！ 思い出した。阪神・淡路大震災で区画整理地区に指定され、会社の棟屋も六棟中一棟を除いて全て焼かれ、早く仮設で再出発したいと思っていたところ、三階の仮設は駄目だと言われたが強引に三階にしたことを。あちこち分散する訳にかず1カ所にする、面積的に三階を建てずには不可能だし、雇用を最優先にしているのに文句あるのかの気概だった。

さて陸前高田市気仙町荒集落の瓦礫の中にぽつんと立つプレハブ住宅。大工の熊谷立郎さんが自力で建てたとある。「市から撤去してほしいと言われたが、今の場所に愛着がある。自分の土地に住む権利はあるからね」。一方岩手県は同市など十二市町村に対し、津波で浸水した地域で仮設住宅を一定期間禁止する条例を制定するよう求めている。県の担当者は「対象地域の線引きや説得は市町村に委ねており、条例制定には早くても半年はかかる」と言う。やっぱりだ。行政は条例を作り議会を通さねばならない故、時間がかかると言い「何をのんびりしやがって」対「世の中分かっていない」の対立になる。神戸も一緒だったが、前例の無いものに対する備えが無い。もっとスピードを上げられないか。そこには「生活」がある。私見だが、行政が与える仮設と個人が作る仮設があつていいと思う。そして行政が与える仮設の費用分を熊谷さんに渡してもいいのではなか。早く生活を元に戻して自立の姿勢を持ち、やがて自分たちのまちをどうしようと考えてようになる。自分の土地に建てた仮設から本格復興への歩みを進めるようになるのではなからうか。先が見えてこそその活力だ。

株式会社兵庫商会 田中保三

# まち・コミ活動報告

6/1 ~ 7/10

6/1【震災学習】各務原市立稲羽中  
 6/2【震災学習】多治見市立平和中  
 6/4 パソコンネットワーク作業  
 6/7【震災学習】愛西市立佐織西中  
 6/7 ~ 9【東北震災支援】亘理町へ  
 6/9【震災学習】高知市立大津小  
 6/13 ~ 15【出石市民農園】たまねぎ収穫

6/14【震災学習】四日市市立港中  
 6/16【震災学習】可児市立中部中  
 6/22【震災学習】揖斐川町立揖斐川中  
 6/27【講演】神戸松蔭女子学院大学(宮定)  
 6/27 まち・コミ打合せ  
 6/27【震災学習】輪之内町立輪之内中

6/29【震災学習】豊田市立崇化館中  
 7/2【出石市民農園】黒豆作業  
 7/5 まち・コミ打合せ  
 7/5【震災学習】振り返り会  
 7/9【出石市民農園】黒豆作業

## ご支援、ありがとうございます。

5/21 ~ 6/10

### 賛助会員(新規・継続)

大牟田智佐子(大阪府) 鈴木和博(新潟県) 安藤厚子(高知県) 陳浩明(大阪府) 池田寛(香川県)  
 遠藤勝裕(埼玉県) 北野泰成(兵庫県) 安田正(兵庫県) 今田忠(大阪府) 津久井進(兵庫県) 舟橋國男(大阪府)  
 山本茂一(愛知県) 岡本俊雄(愛媛県) 谷川一成(兵庫県) 関口千鶴子(兵庫県) 田中貴宏(広島県)  
 下土居希(東京都) 熊田俊郎(東京都) 横田尚俊(山口県) 入口方(兵庫県) 河喜多勝(福岡県)  
 大久保洋子(兵庫県) 森山正和(大阪府) まつしまハル(熊本県) 新川泰道(秋田県) 田中邦彦(兵庫県)  
 大東石油株式会社(兵庫県)

### 寄付

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

## 新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

### 会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 まち・コミでは、facebookでも情報発信中です。「まち コミ」で搜してください。友達リクエストよろしくおねがいいたします。(戸)

### 年会費

個人・法人 年間5000円  
 学生 年間3000円

### 郵便振替口座番号

00950-3-42788

### 口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2011年8月1日発行

編集/発行 まち・コミュニケーション

定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014

神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1

専修大学人間科学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/